

武雄市地域公共交通計画【概要版】(案)

(1) 計画の目的

西九州新幹線の開業による状況変化なども見据えながら、地域が目指す将来像を実現していくための公共交通のあり方を検討し、将来にわたって市民の生活を支える“持続可能な地域公共交通体系”の構築に向けた総合的な計画を策定するとともに、行政・交通事業者や公共交通利用者はもとより、地域住民や各種団体・施設などが一丸となって、効果的・効率的な施策展開を推進していくため、「武雄市地域公共交通計画」を策定する。

(2) 計画期間 令和7年 月～令和12年3月(5か年)

(3) 計画概要

〔地域の現状・問題点〕 p.7～p.24

- 位置・地勢、人口・世帯推移・主要施設の立地
- 市民の移動特性
 - ・通勤・通学
 - 市内在住の6割は市外に通学
 - 高校進学先を選択する際、3割は公共交通での通学を重視
 - ・買い物、通院
 - 町ごとの移動特性を図示
- 免許保有状況
 - ・女性は年齢が上がるにつれて保有率が大きく低下
- 主要観光地、観光客入込客数、観光消費金額
 - ・観光地等を図示、観光動向の推移

〔公共交通の現状・問題点〕 p.25～p.34

- 鉄道、路線バス等の概要
 - ・ JR 佐世保線の運行便数
 - ・ 路線バス 9 路線運行
 - ・ ほんわカー7 町（武雄、朝日、橘、若木、武内、山内、北方）にて運行
- 各バス路線の利用者数、財政負担額
 - ・ 利用者総数（R5 年度）
路線バス約 29 万人・ほんわカー1.3 万人
 - ・ 市の財政負担額（R5 年度）
路線バス約 115 百万円・ほんわカー約 23 百万円

〔各種調査結果〕 p.35～p.42

- ## ○高齢者、民生委員・児童委員アンケート

〔公共交通に求められる役割〕 p.47

- 市内外の移動を確保し市民の生活を支える役割
- 「西九州のハブ都市」として新幹線開業による効果を受け止め、市内や周辺市町に波及させる役割
- まちづくりなどとも連携し、都市の持続性向上を推進する役割

〔解決すべき課題〕 p.48～p.49

- 【課題①】
高齢化の進行等に対応した移動手段の確保・利便性の改善
- 【課題②】
小・中学校や高校への通学手段の確保・維持
- 【課題③】
市内外の観光・交流を支える移動サービスの確保・維持
- 【課題④】
移動サービス全体の持続性向上

〔公共交通のあり方（基本方針）〕 p.50

- 【基本方針１】**
様々な移動サービスを組み合わせることで、市民生活に不可欠な移動を支える公共交通
- 【基本方針２】**
西九州のハブ都市として、市内外の観光・交流を促進する公共交通
- 【基本方針３】**
まちづくりとも連携した都市の持続性向上に寄与する公共交通

〔取組の方向性と施策の展開〕 p.54～p.64

- 【方向性 1】**
広域交通体系の確保・維持と地域内交通との一体性の強化
・地域間の幹線となる鉄道・路線バスの維持など
- 【方向性 2】**
需要に応じた運行形態・サービス水準等の見直し
・ほんわカーの運行形態の見直し・効率化など
- 【方向性 3】**
多面的な利用促進策の展開
・地域との連携による利用促進策の展開など
- 【方向性 4】**
多様な“担い手”による移動サービスの確保
・多様な枠組みでの「ライドシェア」の活用
- 【方向性 5】**
デジタル技術の有効活用の推進
・バスロケーションシステムの導入促進など

評価指標の目標値等

評価指標	単位	現況値	目標値
地域内交通の年間利用者数	千人/年	21 (R5 年度)	25
地域内交通の収支率	%	11.8 (R5 年度)	14
公共交通に対する市の財政負担額	百万円/年	138 (R5 年度)	160
武雄温泉駅の乗車人数	人/日	1,953 (R5 年度)	2,500
武雄市の年間観光入込客数	万人/年	153 (R5 年)	200
居住誘導区域内の人口密度	人/ha	28.3「中心拠点」 17.6「高次地域拠点」 (R4 年度)	現況値 以上
誘導施設の立地数	施設	19「中心拠点」 6「高次地域拠点」 (R4 年度)	現況値 以上